

受賞祝賀会の御礼あいさつ

— “いまある”ものを活かし、市民が主役のまちづくりを—

太平洋に突き出て東京湾の入口にあたる房総半島半部の安房地域は、古くから漁業や海上交易の拠点として多くの海洋民が交流し、共生してきた地です。一方、繰り返しささまざまな支配権力の影響を受けた地域であり、その象徴が中世の城跡群や近現代の戦争遺跡群といえます。また、日本で一番が隆起しているといわれ、地球の成り立ちがわかる地層や海食洞穴などがあり、沖合には黒潮と親潮の豊かな生態系をみることができます。

これらの自然環境や、風土に根づく歴史的な文化遺産など、地域に“いまある”ものをまちづくりに活かし、地域課題の解決を図れないだろうかと模索してきました。安房ならではの歴史や知恵を語り継ぐことによって、先人たちが培った“平和・交流・共生”の精神を受け継ぎ、心なごむ豊かな地域社会を子どもたちに手渡したいと願って、20年余にわたり戦争遺跡や里見氏稲村城跡などの保存・活用を旨とした市民運動に取り組んできました。

フランスで提唱されたエコミュージアムの概念は、地域全体を「地域まるごと博物館」と見立てて、魅力的な自然遺産や文化遺産を再発見するとともに、市民が主役となって学習・研究・展示や保全活動を通じて、まちづくりに活かしていくという考え方です。自然的環境や歴史的環境のあり方を学びながら、地域の特性をよく理解し、市民自らがすすんでまちづくりに参画する市民社会が求められています。平成13年から実施し、これまでに数千人の市民が地域の魅力を再発見してきた「里見ウォーキング」は、まさに「地域まるごと博物館」のモデルコースとしての試みです。このガイドブックは、そのエリア別テーマ別に編集し、新しい地域像が学べるように工夫しています。

こうした取り組みが多くの皆様が支持され、2004年には館山海軍航空隊赤山地下壕跡が館山市指定史跡となり、現在、里見氏稲村城跡も国指定史跡に向けての調査検討が進んでいるところです。平成18年度内閣官房長官賞、20年度千葉県文化の日功労賞、そして文化財保存全国協議会の第10回和島誠一賞という名誉ある受賞は、長きにわたって文化財の保存・活用にご理解ご支援をいただいた全国の皆様のおかげに外なりません。

日本の市民活動は、阪神大震災などの事例を経て法制化され、数多くのNPO法人が誕生しました。私たちの活動も法人化してから5年が経過し、平成21年度は国土交通省より「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業にも選定されました。少子高齢社会のなかで、一人ひとりの市民が知識や技能を活かしながら社会活動に参画し、生きがいにあふれたコミュニティづくりに取り組んでいるところです。このように公的性質を担う非営利活動が高い評価を得て期待される一方で、自立した組織運営をおこなうにはまだまだ厳しい状況にあるのも現実です。今後とも、さらなるご理解ご支援のほど何卒よろしく願い申し上げます。

本日の祝賀会は、皆様のご厚情をふりかえり、活動の原点である志しを思い出す素晴らしい機会となりました。皆様とともに喜びを分かち、夢を語り合い、ともに手をつなぎ支え合うまちづくりの一歩となったことを深く感謝しております。

2009年9月26日

NPO法人安房文化遺産フォーラム
(旧・南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム)
代表 愛沢 伸雄